山東っ子

長子配布

令和２年７月８日　№５

武雄市立山内東小学校
Tel 45-3565　Fax 20-7014
文責：　校長　岩永　宏紀

学校教育目標：『自ら学び、心豊かで、元気な東っ子の育成』

◆ 山内東小の約束:『相手がいやがることは しない　言わない』

◆ 山内東小学校は「立腰教育－あいさつ・返事・はきものそろえ」で頑張っています。

いのちの重み

昨日は、大雨のため休校になりましたが、家のほうは大丈夫だったでしょうか？今回の大雨では、たくさんの人が亡くなっていて、改めて、「自然災害の恐ろしさ」と「生きているありがたさ」を感じています。そこで、今日の全校朝会（放送）の場を使って、以下の「いのち」の話を子どもたちにしましたので紹介します。

～７月全校朝会（放送）での校長の話より～

今朝の校長先生の話は、「いのちの重み」についてです。

校長先生には、大学３年生と高校３年生の娘がいます。親にとっては目に入れても痛くないほどかわいい娘です。親にとって子どもは一番の宝です。今日は、そんな子どもの命の話をします。

校長先生には、実はふたりの娘の間に大学１年生になるはずだった息子がいました。その子は「賛人（さんと）」と言います。賛人は、お母さんのおなかの中に１０か月いて、さあ生まれるという時に突然、心臓が止まってしまいました。原因がわからず、とにかく悲しくて悲しくてたまりませんでした。しかし、もっとつらかったのは、亡くなっているとわかっている子どもをお産しないといけなかったことです。

妻は、生きている子どもを産むのと同じ痛みと時間をかけ、一生懸命、赤ちゃんを産みました。本当なら、生まれてきたら泣き声がして、たくさんの人たちが笑顔で迎えてくれるはずでした。そんな最高に幸せな日になるはずが、生きていて一番つらい日になりました。生まれた子どもは、とてもかわいい男の子でした。看護師さんが、「お母さん似ですね」と言って、赤ちゃんを抱かせてくれました。校長先生は、一日中、その子を抱っこしたまま、「お父さんだよ！何が好き？どこに行きたい？」と一生分、話かけました。そして、次の日、賛人を小さい棺（ひつぎ）の中に入れ、生まれてきたら喜ばせようと買っていた「おもちゃ」や「ぬいぐるみ」を入れてあげました。妻は、帝王切開という手術を受け、麻酔で眠っていました。亡くなった赤ちゃんをこのタイミングで見せると、お母さんは自殺してしまうかもしれないというお医者さんの指示もあり、亡くなった赤ちゃんは、妻には見せないまま、次の日、赤ちゃんを火葬場に連れていきました。

妻が目を覚ました時、「賛人は？賛人は？」と何度も叫びました。きっと手術の麻酔で、亡くなっていることを忘れていたのだと思います。おなかを痛めて、１０か月一緒に過ごした子どもの姿がないことが、妻にとってどれだけつらかったことか。それを思うとつらくて悲しくてたまりませんでした。

それから１９年、校長先生は、亡くなった赤ちゃんの仏壇に、毎朝、話しかけています。１９年間、ずっと、この朝の「会話」を続けています。

今日、みなさんに伝えたかったことは、今、生きていることは「当たり前ではない」ということです。生きたくても生きられなかった命があるということです。そして、みなさん一人ひとりのうしろには、命がけで育ててくれている家族がいます。みなさん一人ひとりを宝と思っている家族がいます。だからこそ、家族を悲しませるようなことはしないでください。自分の命を大切にしてください。友達の命も大切にしてください。友達を傷付けたり、いやがることをして、友達の家族を悲しませないでください。どうか、どうかお願いします。以上で、校長先生の話を終わります。

6年生を対象に　防災教室を行いました！

6月30日（火）の５校時に、市防災・減災課の犬走さんをお招きして、６年生を対象に防災教室を行いました。内容は、昨年度の豪雨の様子やたいへんだったことを話していただき、その後、山内東小校区の危険な場所の確認や雨の量の表し方（猛烈な雨など）から雨量がわかる表を提示していただきました。大雨が続く中、改めて、防災の知識や「自分の身は自分で守る」意識と行動力の大切さを学ぶことができました。全校に広げたいと思います。